

自分の名前

南部中・2 中田 海陽

私の名前は、珍しい。私の名前は中田海陽。「なかだみはる」と読む。名前を言ったとき、「何の漢字で書くの。」

と、よく聞かれる。同じ名前の読み方の子に一回だけ、会ったことがあるが、この漢字が一緒の子には会ったこともないし、初対面で読める人はいないと言っても過言ではない。まるで難読漢字のようだ。

小学校の頃、私はたくさん悩まされた。みんなに自分の名前をびつくりされたり、先生に名前を間違えられたり、自分にとって、自分の名前は嫌いになっていた。馬鹿にされている気持ちになってしまった。授業でテスト返す最中もよく名前を間違えられ、自分はテストの点数よりも、自分の名前がなんと呼ばれるのか、毎回ドキドキしていた。間違えられたとき、みんなに笑われてとても恥ずかしかった。

小学六年生、半年が過ぎた頃。私はたくさん友達が出来ていたため、名前のことについて聞かれることが減っていた。

ある日、先生に名前を言われたとき、少し違和感を覚えた。「なかたみはるさん。」

やっぱり。私はよく気づかないことがあるが、名字もよく間違えられる。知らないままにすることもあるけれど、担任の先生に間違えられていたので、私は担任の先生に放課に聞くことにした。

放課のとき、私は先生のところに行き聞いた。

「先生。私の名前、間違えてませんか。」

「え。なかたみはるさんじゃないの。」

私は聞いた瞬間、やっぱりと思ってしまった。そして、

「私の名字はなかだです。」

と言いながら、私はとても大きく大きなショックを受けてしまった。先生は、

「ごめんね。」

と謝ってくれたが、半年も間違えられていたと思うと、とても胸が苦しくなった。

私は小学校を卒業し、中学生になった。中学に入学して、他の小学校から来た子がたくさんいて、学校に慣れるのには、少し時間がかかった。どうしても人数が多く、新しく出会った子が多いため、小学校のときよりも名前について聞かれることが増えた。

「名前なんですか。」

と聞かれ、「なかだみはるです。」

と答えた。表情でわかる。びつくりする子がたくさんいるから。自己紹介のときもそうだ。私は自分の名前を言うとき、必ずにっこり言う。みんなにびつくりされないように。でも、みんなに絶対に名前を呼ばれるときがくると思うと嫌になってしまう。

地区別会のときには、名前を間違えられたうえに男だと間違えられた。そこから私は、自分の名前に対して自信を無くしてしまった。

ある日、友達に言われた。「名前のこと気にしてるの。」

と問われて、私はうなずいた。

「でも、同じ名前の子がいないからさ、なんか特別な名前でいいと思うよ。」

友達からこの言葉を聞いて、自分はとても救われた。友達のように思ってくれている子がたくさんいるのかもしれないと思うと心が楽になったけど、今まで自分がとても気にし過ぎていたのは、少し後

悔した。でも、この言葉をきっかけに、私は自分の名前に、自信をもつこともできるようになったし、好きになれるようにもなった。やっぱり、今まで気にし過ぎていた自分がなんだか情けなく感じた。

この経験をきっかけに、私はたくさんのことを学んだ。自分の名前のことは、自分が気にし過ぎただけで、相手はあまり気にしていないかもしれない。だから自分の名前が嫌いになっていったかもしれないかもしれない。自分が相手に反応されるのを怖がっていたから。自分の名前が好きじゃなかったり、名前を間違えられたりして嫌な思いをして、これからは色々な見方で見るようにしたい。そうやっていい見方で見られるようにしていきたい。

中学二年生になった日。これからもみんなに言われる自分の名前。「みはるー。」

友達に呼ばれた。なんだか自分の名前が誇らしく感じた。 7・9